

第3回佐久市総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時：平成23年2月4日

13:30～15:00

場 所：議会棟 全員協議会室

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事

(1) 第一次佐久市総合計画後期基本計画策定基礎資料について

事務局より資料説明（資料1、2）

質疑、意見

<p>(委 員)</p>	<p>財政に関して、平成22年度の当初予算における市税、繰入金・諸収入、分担金等の自主財源は48.7%程度だが、税収は1/4位しかなく、財政力が強いとはいえない。また、繰入金・諸収入等、市税収入以外の中身はどういったものか。</p> <p>2点目として、第一次佐久市総合計画に100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出とあるが、前期期間において、どのようなことを取組み、またどのような問題があるのかをお示しいただきたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>1点目の市税収入以外の中身については、公共施設の使用料や、利用者の負担金、基金を取崩した繰入金等がある。</p> <p>2点目のうち、産業基盤の強化については、佐久リサーチパークに新たな企業が進出し、景気が低迷する中において完売となった。今後は、まだ空いている他の工業団地への企業誘致が課題としてあげられる。</p> <p>新たな産業創出としては、日照時間が長い佐久の特徴を生かし、関連する地元企業の協力や、国・市の補助金を活用し、太陽光発電の導入を進めた経過がある。今後は、工業試験場、技術センター等の誘致といった産業界からの要望を検討し、大学等とも連携する中で新たな佐久ブランドの開発を進めていきたいと考えている。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>諸収入や繰入金について、主なものとして何があげられるか伺いたい。</p> <p>また、産業面では、佐久広域を含めた産業間の連関が重要。太陽光発電等の良い例をもっと情報提供してほしい。下請け・孫請けなどで、周りの影響がダイレクトに及ぶようでは先行きが不安。地域内の産業連関をどうやって強めていくかが重要と考えている。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>繰入金は基金等からの繰入が主なもの。また、市では財産の運用等も行っており、そういった元利収入も収入に含まれているが、予算額で比較するのは適当ではない面があるので、平成21年度の決算額を後でお示しする。</p> <p>産業面では、現在進めている外灯のLED化については、地元企業の製品を使うようにしている。また、「ものづくり研究会」という組織もあることから、できるだけ地元企業が連携する中で、何かできないか模索しているところであり、事例があったらご報告させていただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>これから後期基本計画を策定していくにあたり、前期の細かい実績が重要。この資料だけでは施策と結果の比較ができない。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>基礎資料は、佐久市がこういった状況にあるということを踏まえていただくためのもの。第1回の審議会の資料で基礎指標の推移を配布しているので、そちらも参考にさせていただきたい。現状における施策の評価については、数値目標を設定していないため、評価方法に苦慮しているが、庁内で検討・作業を進めているので、後でお示ししたい。</p> <p>なお、後で説明する予定だったが、資料5「新市建設計画の実施状況」に、個々具体的な事業の平成21年度末までの実施状況をまとめてあるので、こちらも参考にさせていただきたい。</p>

(2) 第一次佐久市総合計画後期基本計画策定に関する市民アンケート調査結果(速報)について

事務局より資料説明(資料3)

質疑、意見

<p>(委員)</p>	<p>アンケートの最終報告はいつ頃になるのか。</p> <p>都市基盤整備において、「路線バスなどの公共交通の整備を進める」の回答が多い。佐久市は高齢化率が高いため、社会的問題となっている買物難民向けの「足の確保」は非常に大きな課題。</p> <p>商業について、「空き店舗の有効活用を図る」が前回も今回も非常に回答数が多い。先程の基礎資料の説明において、佐久市の小売吸引力指数は高いとの説明があったが、これは大型店舗に客が集中し、従来からある商店が苦境にあることを示している。高齢化率が高まり、買物難民が増えていく中で、近くの商店が閉店してしまうことは今後の課題。</p>
-------------	---

<p>(事務局)</p>	<p>公共交通に関しては市としても危機感を持っており、佐久市全体の公共交通の将来像について検討する「地域公共交通会議」を今月立ち上げる予定。交通基本法が今度の国会で成立する見込みなので、その内容を見定めて、対応してまいりたい。</p> <p>アンケートの最終報告については、今月中に分析が終了する見込みなので、次回の審議会でお示ししたい。</p> <p>商店街の再生については、野沢商店街のぴんころ地蔵を核とした取組みや、岩村田商店街の空き店舗を利用した塾やおかず市場の開設など、地元商店街で様々な努力をしている。そうした努力に対し、市がどういった支援ができるのか、一緒に検討してまいりたい。</p>
<p>(委員)</p> <p>(事務局)</p>	<p>アンケートの中で出てくる「協働」の言葉の解釈は。</p> <p>国でも「新しい公」という言い方をしているが、今までのように市として考え、市だけがやるのではなく、市が持っている情報をなるべく提示し、一緒に考え、議論し、役割分担をして物事にあたるといのが、市として考えている「協働」の大きな考えとなる。役割分担にあたっては、今まで市がやってきたことを市民の皆さんにお願いするようなものも出てくるが、一緒になって市を良くしていこう考えで「協働」という言葉を使っている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>これからの時代は地方主権、地方分権などと言われているが、その単位について、佐久市だけを単位とするのではなく、八ヶ岳から浅間山までの千曲川流域の間を一つの「佐久圏」という単位として見て、共存共栄を図っていく考えが必要。様々な課題に対し、トータルで考える視点の中で、佐久市はどうしていくのかという見方が大事だと思う。</p> <p>また、アンケートの最後の満足度・重要度の中で、文化・芸術や、地域間交流などの重要度が低い値となっている。将来都市像で文化発祥都市を目指し、交流人口の創出などに力を入れていることと、アンケート結果との違いが気になる。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>アンケートの結果により、市として、文化発祥都市を目指す将来都市像を変えるわけではない。箱物建設によらない、新たな文化振興策を策定していく予定。</p> <p>広域的な単位による課題の検討については、まさに「定住自立圏構想」による佐久広域圏の振興について、検討を進めているところであり、中心市として圏域全体の発展を目指し、できるところから連携して事業等を進めていく予定。</p>

(3) 第一次佐久市総合計画後期基本計画策定に関する地区懇談会における意見等について

事務局より資料説明（資料４）

(4) その他

事務局より報告

（資料５）佐久市新市建設計画の実施状況について

佐久市ホームページにおける第一次佐久市総合計画後期基本計画策定及び、総合計画審議会の開催状況等の掲載について

次回の審議会開催予定について

質疑、意見（全般）

(委員)	<p>先程の計画の単位に係る意見について、広域佐久圏の視点を持つ考え方は賛成。それに加え、日常生活圏（一般的には小学校単位で、歩いて行ける範囲）の生活環境が充実しないと、立派な都市ができて日常生活の不安定さにつながる。そのうえで、旧町村単位、全市、佐久広域圏の充実を考え、計画策定にあたっていく必要がある。日常生活に接点がないと、計画策定への市民の参加は得られず、分かりやすい計画づくりにつながらない。</p> <p>また、次の計画を中身があり、実効性を伴うものとするために、これまでの施策の達成状況について、点検の徹底や議論を深めることが必要。数値化できないものも含め、実績や進んでいない原因を可能な限り分析し、委員の間で議論することが次の計画につながる。</p>
(会長)	<p>個々の事業・施策の進捗状況等が資料５にまとまっているので、委員がこの資料を見て、意見等があればそれを申し上げるという形が一番良い。</p>